

山武市子ども・子育て会議（令和元年度第3回）要旨

日時:令和元年12月26日(木)14時00分～16時30分

場所:山武市役所 大会議室

出席者:委員11人/20人

事務局13人

傍聴人:なし

進行:子育て支援課主幹

議事進行・会長

議事結果

(1) 協議事項

①第2期山武市子ども・子育て支援事業計画（素案）の検討

・・・了解

②目標量の確保方策の検討

・・・了解

(2) その他

敬称略

1. 開会〔進行〕

会議成立の報告〔進行〕

（委員20名中11名出席。会議条例第6条により、過半数を超えたので会議開催。）

2. 挨拶〔会長〕

3. 議事〔会議条例により議事進行：会長〕

(1) 協議事項〔説明：子育て支援課〕

①第2期山武市子ども・子育て支援事業計画（素案）

（「資料1第2期山武市子ども・子育て支援事業計画（素案）」をもとに報告）

「第1章 計画の趣旨」について

・内容への質問、意見 意見なし

「第2章 子ども・子育て家庭を取り巻く状況と課題」について

・内容への質問、意見

Q〔委員〕子ども・子育て支援の課題として、「(8) 子どもの貧困対策」があるが一般論となっており、山武市としてどのような課題があるのかが読み取りにくくなっている。市の貧困家庭の割合や、「(7) 外国につながる子どもへの支援・配慮」に関連する外国籍の世帯の割

合などの現状があると、山武市としてどのような課題となるか見えてくるのではないかと。

A〔事務局〕 貧困対策については、生活保護を受けている家庭の子どもを対象として、国の基準に基づいて支援を行っている。また、夏休みに学習支援として、小学生を対象に月謝を取らない形で3回程度4地区で実施しており、中学生は10月～1月に実施している。

A〔委員〕 外国につながる子どもへの支援について、今年の幼稚園在籍の108名のうち、10名が外国籍である。言葉がなかなか伝わりにくい状況があり、普段の保育の中で子供たち、職員も困っている状況がある。NP0の通訳の方に支援していただいたり、外国籍の保護者と情報交換会をしたりしているが、なかなか通じない部分がある。翻訳機を導入して英語で伝えることもしているが、子供たちの英語を機械で翻訳することは難しい状況もあり、スリランカのシンハラ語を通訳できる人材が不足している状況である。

「第3章 計画の基本的な考え方」について

・内容への質問、意見

Q〔委員〕 基本施策の「子育て家庭の経済的支援の推進」に関連して、市のチラシに「子ども医療費助成、高校生等医療費助成の拡充」があるが、市民には周知されているか。

A〔事務局〕 8月の申請の更新に合わせて、対象者には手紙を送付しており、また、市ホームページ、広報、窓口でもお知らせしている。

「第4章 基本施策の展開」について

・内容への質問、意見

Q〔委員〕 成果指標の「生活習慣の改善に努めた生徒の割合」に「児童」は含めないのは何か意図があるのか。また、全体的に成果指標の現状値、目標値の記載が、項目によって0.1上げたり下げたり、まちまちである印象を受けたので、統一したルールで記載した方が良いのではないかと。

A〔事務局〕 それぞれの成果指標については、市の総合計画ですでに示されている部分でもあるため、細かな調整は難しいと考えている。「生活習慣の改善に努めた生徒の割合」についても、市の総合計画の内容に合わせており、児童を含まず、中学生を対象に生徒としている。

Q〔委員〕 成果指標の「出生者数（計画期間累計）H29～R4」について、現状値と目標値が大きく乖離しているように見えてしまうため、目標値の部分に「平成29年度～令和4年度」と表記した方が良いのではないかと。

A〔事務局〕 表記についてはわかりやすいように修正させていただきます。

②目標量の確保方策の検討

「第5章 量の見込みと確保方策」について

・内容への質問、意見

Q〔委員〕 「②保育所、認定こども園（2・3号認定子ども）」の見込み量が、申請の受付が終了したことによって、減ったというのはなぜか。

A〔事務局〕 「①幼稚園、認定こども園（1号認定子ども）」が228名から285名に増え、「②

保育所、認定こども園（２・３号認定子ども）」の３～５歳児の５６０名が４９５名に減っている。３～５歳児の保育利用者のうち、幼稚園、認定こども園利用を希望する方が見込みよりも多かった結果である。もともと、見込みでは無償化の関係もあり、保育ニーズも強いと示されていたので、保育利用者がもっと増えると想定していたが、実際受け付けたところ、それほど多くはなかった。

Ｑ〔委員〕「（２）地域子育て支援拠点事業」の見込み量について、人口推計からスライドしているとのことですが、人口推計だけではなく、相談等のニーズを踏まえると見込み量も変わってくるのではないかと考えている。ただ、現状では人口推計以外では出せないのでは、見直しの際にご検討いただければと考えている。本文中の「受け入れ体制に努め」は「受け入れ体制の確保に努め」の方が良いと考える。

Ｑ〔委員〕市で行っている悩み相談について、子育ての不安等の相談に活用できる良い事業だと考えている。子育て支援センターについて、乳幼児から就学前の子どもまで利用でき自由な雰囲気があるが、保護者の体温の計測が必要になるなど途中から利用のルールが厳しくなって、利用しなくなってしまった。

Ａ〔事務局〕子育て支援センターについては、子どもの安全面を考慮して、利用にあたって子どもだけでなく、保護者の体温を測るなどの対応になったと考えている。いただいた意見を踏まえて、今後の利用について、子育て支援センターの職員も含めて協議していきたいと考えている。

Ｑ〔委員〕５８ページの「（４）認定こども園等と小学校等との連携」の中で、「教員の交流事業などを通じて」とあるが、事業があるのであれば、２８ページの「⑤学校の教育環境等の充実」の主な事業・取組みの中に取り込んでも良いのではないかと考えている。

Ａ〔事務局〕いただいた意見を踏まえて、調整させていただく。

Ｑ〔委員〕現在、幼稚園、こども園の職員と小学校の先生方と意見交換会をさせていただいている。こちらから小学校に意見交換をお願いしている状況であり、事業として入れるのであれば、より小学校と連携できるよう働きかけをお願いします。

Ａ〔事務局〕いただいた意見を踏まえ、十分に検討させていただき、今後に生かしていければと考えている。

Ｑ〔委員〕現在、事業として実施していないのであれば、「交流事業」という表記を検討していただければと考えている。

事務連絡を伝え、閉会

